

長野工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	都市デザイン
科目基礎情報				
科目番号	0001	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	生産環境システム専攻 (先端融合テクノロジー連携教育プログラム)	対象学年	専1	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 桑野園子編「音環境デザイン」コロナ社, 参考書: 日本騒音制御工学会編「地域の音環境計画」技報堂出版, 建築学会音シンポジウム資料			
担当教員	西川 嘉雄			
到達目標				
都市デザインとして都市空間に望まれる音環境を説明できること。特に, その都市空間にふさわしい音環境を「景観への調和・騒音制御・信号音や音声情報の伝達など」の視点で説明ができる。以上の内容を満足することで学習・教育目標の(D-1)及び(D-2)の達成とする。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
都市計画法の用途地域に関する事項	都市計画法による用途地域と都市計画事業を理解し, 具体的な都市計画の事例を説明できる。	都市計画法による用途地域と都市計画事業について説明できる。	都市計画法による用途地域と都市計画事業について説明できない。	
都市空間における音環境に関する事項	都市空間に望まれる音環境を説明でき, それぞれの空間に適切な音環境の目標を設定できる。	都市空間に望まれる音環境を説明できる。	都市空間に望まれる音環境を説明できない。	
騒音制御・音声情報伝達に関する事項	騒音制御・信号音や音声情報の伝達などの最適な状況について説明でき, 適切な目標設定や設計が出来る。	騒音制御・信号音や音声情報の伝達などの最適な状況について説明できる。	騒音制御・信号音や音声情報の伝達などの最適な状況について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	都市デザインのあり方を, 都市空間における音環境の快適性と情報伝達を題材とし習得する。まず, 都市計画法の用途地域や都市計画事業について理解する。さらに, 都市空間における音環境の現状を理解し, 騒音制御・信号音や音声による情報伝達・サウンドスケープ手法などを用いて景観に調和した音環境の創造について考える。			
授業の進め方・方法	講義は, 概要の説明後に, 各自調査や資料収集を行いレポートを作成する。また, 音環境測定や信号音の作成などを行い報告書をまとめる。なお, この科目は学修単位科目であり, 授業時間30時間に加えて, 自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。			
注意点	<成績評価> 試験 (70%) および教科書を基に適宜出題するレポート・報告書 (30%) の合計100 点満点で学習・教育目標の (D-1) 及び (D-2) を評価し, 合計の6 割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする。 <オフィスアワー> 毎週水曜日16: 00~17: 00, 環境都市工学科, 西川教員室。この時間にとらわれずに必要に応じて来室可。 <備考> 常に街をある行くときなどは, 都市空間と音環境のかかわりなどを意識することが重要である。なお, 本科目は学習単位であり, 授業時間30時間に加えて, 自学自習時間60時間が必要です。			
授業の属性・履修上の区分				
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用	☒ 遠隔授業対応	☒ 実務経験のある教員による授業
授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	都市計画法	都市計画法による用途地域と都市計画事業について説明できる。
		2週	都市空間の音環境の概要／公共空間の音環境	都市空間の音環境の基礎事項として, 公共空間の分類が説明できる。
		3週	騒音による生理的・心理的影響	環境が都市の印象に与える影響, 生理・心理的影響について説明できる。
		4週	会話・作業・聴取妨害	音の評価がかわる基本事項について説明できる。
		5週	都市空間の音環境に関する法規制	国際規格や国内法規 (環境基準や騒音規制など) の概要を説明できる。
		6週	都市空間における音環境の実態/調査方法・評価方法	音環境の調査方法, 目的, 結果の考察方法についての確に説明できる。
		7週	交通機関 (駅, 空港・乗り物など)	音環境の調査結果により, その場に応じた望ましい音環境について説明できる。
		8週	商店街・地下街・商業施設	音環境の調査結果により, その場に応じた望ましい音環境について説明できる。
	4thQ	9週	公共施設・公園・緑地	音環境の調査結果により, その場に応じた望ましい音環境について説明できる。
		10週	都市空間の信号音のデザイン/危険・情報を知らせる音	警告音, サイン音, 報知音や音声による避難情報などの特徴を説明できる。
		11週	高齢社会に配慮した音	高齢者の聴覚特性を考慮した信号音について説明できる。
		12週	景観と音の相互作用	景観と音の関係の概要を説明できる。
		13週	視覚と聴覚の相互作用の基礎知識	視覚と聴覚が景観に及ぼす影響を説明できる。
		14週	サウンドスケープデザイン	サウンドスケープの概念を説明できる。
		15週	定期試験	定期試験の実施。
		16週	試験答案の返却など	答案返却と解説の後, 試験に関する質問に対応する。
評価割合				

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	100
配点	70	0	0	0	30	100